

教会を在らしめるもの

使徒 1:6~8

コロナ禍で生活が暗中模索の状態にある中、先週はロシアのウクライナ侵攻という社会を暗澹とした思いにさせることが起こっています。どんなに文明が進み、科学技術が発達しても人間の貪欲さと罪深さは変わらないものだと思います。このような中であって教会は、そして私たちはどのように歩んでゆけば良いのでしょうか？ 宗教改革者のルターは「たとえ明日世界が滅びることを知ったとしても、私は今日りんごの木を植える」と言いました。社会がどのように進もうとも神に生かされている自分が神と隣人のために今、出来る良きことを精一杯すること。それが今を生きる私たちクリスチャンの歩みではないのでしょうか？

今日は礼拝後、延期していましたが教会総会が持たれます。私たちの教会は宗教法人という法人格を有して活動を続けています。ただそれはこの日本の社会の中で認められた団体、共同体ということ、もっと具体的に言うなら企業とかと違って、収益を上げるために集まっているのではなく礼拝と交わり、そして伝道活動のために集まっています。ですから具体的には税金面で免除されている部分があります。しかしそれが分かったからと言って教会を理解したことにはなりません。改めて、あなたにとって教会とはどのような存在なのでしょう？ それを知るために教会がどのようにして始まったかを学ぶことは大変意義深いことと思います。この後、使徒の働き 2 章においてペンテコステの日、エルサレムにおいて教会が誕生しました。しかし、教会はその時に突然誕生したわけではありません。教会が誕生するに至る過程があるのです。どのようところをかって教会は誕生したのでしょうか？

**第一に、教会は祈りから始まりました。**使徒の働きの一章によりますと、イエスが天にお帰りになってからおよそ 120 人ほどの弟子たちがエルサレムに集まっていました。何のために？ それは祈りのためです。彼らは、やがて聖霊を受けることを約束されており、エルサレムでその約束の成就を待っていたのです。しかし何もしないで待っていたのではありません。ひたすら祈って待っていたのです。1:14 に「この人たちは、婦人たちやイエスの母マリヤ、およびイエスの兄弟たちとともに、みな心を合わせ、祈りに専念していた」とある通りです。専念するとは没頭する、そのことで頭の中が一杯という状況です。彼らは何を祈っていたのでしょうか？ 「イエス様、私たちは聖霊を待ち望むにふさわしい状態なのでしょうか？」 「地の果てまでイエスの証人となるにはどうしたら良いのでしょうか？」 等、様々な祈りがささげられたことと思います。ある人が「人は礼拝に出席する前にどのように準備したかによって礼拝がどのようなものになるかが決まります」と言っています。私たちは礼拝の前にどのように備えているのでしょうか？

人々が祈りのために集まっている、そこに教会があります。多くの方は「教会」というと、高い屋根の上に十字架がそびえる「教会堂」を思い浮かべるでしょう。しかし、教会堂と教会とは別のものです。教会堂があってもそこに誰も集っていなかったら、それは教会ではありません。初代教会は教会堂を持ちませんでした。神殿や講堂、大きな家に、そして、ローマでは、迫害の時代にはカタコンベと呼ばれる地下墓地に集まったのです。教会堂がなくても教会は存在します。教会とは、キリストを信じ、神に祈る人々のことだからです。教会堂があっても教会が、つまり、キリストを信じる人々、神を礼拝し、神に祈る人々が起こされるとは限りませんが、キリストを信じる人々、神の約束を信じて祈る人がいれば、教会堂は必要に応じて与えられます。教会堂があるのでクリスチャンがいるのではなく、クリスチャンがいるから教会堂があるのです。

またマタイ 18:19 でイエスは「まことに、あなたがたにもう一度、告げます。もし、あなたがたのうちふたりが、どんな事でも、地上で心をつにして祈るなら、天におられるわたしの父は、それをかなえてくださいます」と言われました。そして、続く 20 節で「ふたりでも三人でも、わたしの名において集まる所には、わたしもその中にいるからです」と約束してくださいました。マタイ 18 章の 19 節と 20 節を

つなげて見ると「イエスの名において集まる」とうのは、まず、なによりも祈りのために集まることだということが分かります。人々が共に祈るところにイエスは共におられます。そして、イエスの共におられる所に教会が存在するのです。会堂であろうとネットを通してであろうとイエスの名において参加し、祈りがあるなら私たちはキリストのからだなる教会につながっているのです。

さて、**第二は「組織」**です。「祈り」の次に「組織」が来るというのはちょっと意外なこととして理解されるかもしれませんが。しかし、事実、弟子たちは、ペンテコステまでの十日間、ひたすら祈りましたが、彼らは祈りながら、教会の組織を整えたのです。1:15 から見ていくと、イエスを裏切ったユダのかわりにマッテヤという人が選ばれました。もうすぐ聖霊が与えられるのだから、マッテヤを選ぶのは「ちょっと待ってや」と考えても不思議ではないのですが、使徒たちは、もうすぐ聖霊が注がれるからこそ、その聖霊の注ぎを受けるべき人を選んでおかなければならないと考えたのです。

人も組織も神が用いてくださる器です。そしてその器は聖霊によって満たされてはじめて神の役に立つものとなります。人々にどんなに能力があっても、組織がどんなに良くできていても、そこに聖霊の満たしがなければ、教会は神のわざを現わすところとはなりません。聖霊に満たされるということは何よりも大切なことなのですが、聖霊に満たしていただくために、器を備えておくということも必要です。「新しいぶどう酒は新しい皮袋に」というイエスのおことばがありますが、ぶどう酒が先か、皮袋が先かというのは難しい議論です。信仰生活においては「魂の内側から湧き上がってくる喜びが大切だ」というのはもっともなことですし、それと同時に「教会は組織がきちんとしてなければ駄目になってしまう」というのも本当です。皮袋はぶどう酒を必要とし、ぶどう酒もまた皮袋を必要とするのです。目に見えない霊的なもの、形のないものは、それを保っておく、目に見える教会の組織、形のある建物、財政を必要とするのです。

初代教会は、きちんとした組織をもっていました。使徒たちがおり、教会会議が開かれ、各地方には、監督や長老と呼ばれる指導者がおり、各教会には教会員の名簿があり、執事たちが立てられていました。私たちも、偶数年度に、役員を選び、毎年、様々な奉仕者を募ります。あんまり堅いことを言わずにみんな仲良く、そして奉仕もしたい人がすればそれで良いではないかと言う人がいますがそうではないと思います。もちろん私は、組織さえつくればそれで教会は大丈夫とは決して考えていません。何よりも聖霊がそれを満たしてくださらなければ、どんなに効率的な組織も力を失います。しかし、私たちには、聖霊がそれを満たしてくださるようにと願いながら、組織を整えていく必要があります。人々は器です。おひとりおひとりが聖霊に用いられる者となるよう、みことばの教育、キリストの弟子としての訓練も必要です。できるだけ沢山の器を神にささげることができるようにと祈っています。

「教会はどのようにして始まったのでしょうか？」**第三は言うまでもなく「聖霊によって」**です。教会が始まる時、そこに祈りがありました。信じて祈る人々がいました。その人々が神のもとに組織をつくり、それを整えていました。しかし、もし、聖霊が人々に降り、組織を満たさなかったら、教会は始まらなかったでしょう。クリスチャンひとりびとりが聖霊によって新しく神の子として生まれるように、教会もまた聖霊によって生み出された「聖霊の子」なのです。コリント第一 12:3 に「聖霊によるのでなければ、だれも、『イエスは主です。』と言うことはできません」とありますように、教会は聖霊によって生まれ変わり、聖霊によってイエスを主キリストとして告白する人々の集まりなのです。

教会を産んでくださった聖霊は、その後も教会を守り、育み、導きつづけてくださいます。ペンテコステに弟子たちを満たした聖霊は、その後、何度も何度も弟子たちを満たし、力づけ、励ましておられます。2:4 で聖霊に満たされたペテロは 4:8 で再び聖霊に満たされています。4:31 には「彼らが祈り終えると、その集まっていた場所が揺れ動き、一同は聖霊に満たされて、大胆に神の言を語り出した」とあります。最初の殉教者となったステパノやアンテオケ教会を導いたバルナバは「聖霊に満たされた人」と呼ばれま

した。パウロも「聖霊に満たされ」大きな働きをしました。パウロに導かれた人たちも「喜びと聖霊とに満たされていた」（使徒 13:52）とあります。天からの激しい風の響き、炎のような舌、そして様々な国の言葉で神のことばを語り出すこと、こうしたことは、教会の誕生を示すためにただ一度限り起こった出来事であって、何度も繰り返されるものではありません。しかし、聖霊の満たしは何度でも繰り返されるのです。聖霊が働いてくださるように求め祈ってゆきたいと思います。そして、日々の生活の中に聖霊の満たしを求めていきましょう。

私たちの信仰は聖霊によって始まりました。教会は聖霊によって生み出されました。そうであるなら、教会は、聖霊以外の何ものによっても成長しないはずです。ガラテヤ 3:3 に「あなたがたはどこまで道理がわからないのですか。御霊ではじまったあなたがたが、いま肉によって完成されるというのですか」とあるように、御霊、聖霊で始まった教会を肉、人間的なものでなんとかしようと考えてはなりません。教会が御霊によって生み出されたことを知っている私たちは、神を信じて祈り、みことばに従って教会を整え、聖霊によって進んでいこうではありませんか。使徒 9:31 に「こうして教会は、ユダヤ、ガリラヤ、サマリヤの全地にわたり築き上げられて平安を保ち、主を恐れかしこみ、聖霊に励まされて前進し続けたので、信者の数がふえて行った」とありますが、これは使徒行伝の全体をあらわすようなみことばです。私たちの教会も同じように「聖霊に励まされて前進し続け」てまいりましょう。